

■今月の特選句

2013年9月号

あちこちにためらい傷の宇治金時

有富 洋二

写生で「ためらい傷」の表現がいい。八木健の句に「かき氷どの部分から崩さうか」がある。「眩き」の句である。早く食べんと溶けるがよ。

雀らを休ませてやる案山子の手

永島董玉

稲雀に親近感を持ち、お役目を逸脱した。案山子は「手」が勝手にやったことと、弁明するだろうが、大目に見てやろうよ。

いらいらを錐揉みにして髪洗う

青木輝子

「錐揉み」の写生に思いを絡ませて巧い。八木健も盗作してみようか。「いらいらの妻瓜揉みをしてをりぬ」「電動の錐揉み虫歯予防デー」。

蝉よ鳴け思い切り鳴け今でしょう

齋藤八兵衛

蝉たちは一週間が「ナンパ」できる制限期間。僕らも、あと何年滑稽句を作れるのか。ここで一句、「滑稽句思い切りつくれ今でしょう」。

物理学的実証の遠花火

西をさむ

あきらかに音は「ノロマ」な奴。それは科学である。その科学を「詩」に変換した巧妙。ここで一句、「遠来の客遠雷でもてなされ」。エンライコッチャ。

大相撲観ながら学ぶ世界地図

伊地知寛

外国人力士の活躍に腹を立てたものだが、今は、外国の地理に詳しくなって嬉しい。ここで一句、「世界地図にニッポン縮む大相撲」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- ガス抜きに力貸しおり夏踊り
・・・踊る阿呆になれば簡単
青山桂一
- 胎の子を西瓜番にも咎められ
・・・西瓜じゃないわ臨月なのよ
飯塚ひろし
- 青簾透かして妻のこころ読む
・・・妻も夫を煽簾越し
越前春生
- 隠すより目立ちたがりのサングラス
・・・派手なシャツ着て方言丸出し
加藤 賢
- 片陰に収容定員ありにけり
・・・定員超過を睨む先客
金澤 健
- 鬼灯市LEDの照らしけり
・・・地獄の鬼も調子を崩さむ
工藤泰子
- 隠しごとできぬ性格玉の汗
・・・金欠病の貧乏ゆすり
小林英昭
- 泣く嬰に浮き人形ももてあます
・・・人形遂に沈んだままに
下嶋四万歩
- 鰻重を賞味するかなミリ単位
・・・お支払いには小銭ばかりで
壽命秀次
- 目移りをぐっと押へて西瓜買ふ
・・・決断力を妻に褒めらる
白井道義

生御霊自ら客をもてなしぬ

・・・おそらく己が墓も洗うよ

高橋きのこ

アルキメデス気分菖蒲湯あふれさせ

・・・じつと目を閉じ学者気どりに

高橋素子

古日記妻の居ぬ間の曝書かな

・・・夢中で読んでゐたら見つかる

田村米生

■今月の滑稽句

【佳作】	神仏を信じてくぐる茅の輪かな 夏休み富士は登らぬあまのじゃく	青木輝子 青木輝子
【佳作】	民思ふ心に戻れ終戦日 行々子中に潜みて葦襖	青山桂一 青山桂一
【佳作】	梅雨じめり日射せば身体ごと干せり 裏庭に鴉の端居してみたり やさしき雨のゲリラ雷雨の夏の果	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
【佳作】	気の毒な花の萎れやう泰山木 雲の峰並み居るビルを睥睨し 付文のつもりうつかり落し文	麻生やよひ 麻生やよひ 麻生やよひ
【佳作】	月の雨君との距離が遠くなる たてつづけに大きくしゃみする秋彼岸 思い出のこる二の腕の日焼けあと	足立淑子 足立淑子 足立淑子
【佳作】	日灼け子の宿題帳は真白なり 朝顔に新聞受けを隠されぬ	有富洋二 有富洋二
【佳作】	甚平着て怒りん坊となつてをり 触診で食べごろ決めるメロンかな 舌打ちして風鈴下ろす日曜日	有吉堅二 有吉堅二 有吉堅二
【佳作】	秋日濃しエホバの教へ説く女 木犀の風受け戻る倉庫番	飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】	尻音のポンと響けば西瓜買ふ かき氷頭に錐の突き刺さる 揚花火見たくてひとり観覧車	井口夏子 井口夏子 井口夏子
【佳作】	カナヅチの身のほど知らず水遊び 坊っちゃんも赤シャツ着るや夏休み	池田亮二 池田亮二
【佳作】	身の中にゲリラ隠すや処暑の雲 シャキシャキと梨食べる音に孫起きる	石川節子 石川節子

	休暇明け瀕死の花の抗議受け	石川節子
【佳作】	マイカーのこまめなエンスト震災忌 世界遺産にあやかり村の山粧ふ	伊地知寛 伊地知寛
【佳作】	牽牛とイブの逢引きどうなるか 尻子玉ラムネの玉の如く抜け 各駅に停まる特急盆帰省	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	仏壇はあるべき場所にメロンある どちらからも別れ話がソーダ水 冷麦を啜れば真昼来たかな	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	一つ欲し九十九島や夏休み 蝉骸抜け殻の横置かれたり 遍路旅筋肉痛も修行なり	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	七夕の願ひに竹の撓みけり 迎火焚き先祖をどこに招こうか 田舎住まひためらつてゐる生身魂	今城夏枝 今城夏枝 今城夏枝
【佳作】	薔薇もまた散り時知るや大連休 ユーモアのDJポリス暑し群れ 昼顔や昼寝から覚め酔いし顔	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	珈琲に見る句(ミルク)はいかが夏のカフェ 焼き足りぬ夜店の焼き鳥捨てられず ままごとの主役となりぬ蝉の殻	上山美穂 上山美穂 上山美穂
【佳作】	東京の月を見てゐる山頭火 田舎そば箸より飛びし天道虫 手招きについ誘はれて尾花道	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	愚痴言へる今が幸せ生身魂 甚平を着てふえてきし独り言	越前春生 越前春生
【佳作】	暑気払ひする術求めさ迷ひぬ 八月や原爆原発記事並ぶ 敗戦日特集ドラマ今年また	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	ひまはりの迷路太陽目をまはす 丑年の食へぬ鰻や土用丑 ギヤル誘ふお化け屋敷や夏の宵	笠 政人 笠 政人 笠 政人

【佳作】	体内に線香花火や熱中症 塩になる歩き遍路の顔の汗 夏の風町家の暖簾揺らし過ぐ	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	跳躍台大き白雲邪魔になる 強迫をさるる心地に草を引く	加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	水羊羹舌に引つき甘味感 孫娘天瓜粉臭う魔女になり 千匹の川面に光る夏の鮠(はや)	門屋 定 門屋 定 門屋 定
【佳作】	青雲のこころざし無くかき氷 浜日陰西瓜割られる出番待つ	金澤 健 金澤 健
【佳作】	病葉と呼ばれ黄や紅自己主張 蝉時雨僧の読経と張り合ひぬ 原爆忌考へ込んで鍋焦がす	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	モニターに押売り写る大暑かな 上段に鎮座の西瓜売れ残る 渋滞の先も渋滞稲びかり	菅野あたる 菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	生ビール口角泡を飛ばしけり 卵焼きくるくる回し扇風機 お前には俳句は無理と海水浴	久我正明 久我正明 久我正明
【佳作】	虫喰ひの鬼灯に闇おとづれぬ 八合目胸突き八丁富士登山	工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	雨中戦コップのビール増へて来し 炎天下車が人に引かれるし	黒田忠一 黒田忠一
【佳作】	饒舌を許せとばかり蝉しぐれ 寅さんへメロン一片取り置きし 出来栄えを褒めて胡瓜をせしめけり	小泉花子 小泉花子 小泉花子
【佳作】	帰省子にせめて空気は無農薬 入院の妹がうらやましきメロン	小林英昭 小林英昭
【佳作】	鼻の汗つまむサインの甲子園 富士山は表も裏も逆さまも	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛

	尖閣の島をゆき違ふ水馬 プリンスに生れた後の蟻地獄	酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	同じ神信じて争う炎天下	
	再雇用走り通しで疲れ増す 先祖さんお墓掃除で気も洗ふ 夏盛りかき入れ時と扇風機	佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	夏盛りかき入れ時と扇風機	
	丑歳の吾に馬追虫(うまおい)しいちよつちよ 観光海女磯嘆きにも大喝采 夕立が恵みの穂水株張田	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	丑歳の吾に馬追虫(うまおい)しいちよつちよ 観光海女磯嘆きにも大喝采 夕立が恵みの穂水株張田	
	ペペルモココサブランカや霧の中 山育ち里で身変わる七変化 立話し犬のしつけや夏談義	柴田止揚 柴田止揚 柴田止揚
【佳作】	ペペルモココサブランカや霧の中 山育ち里で身変わる七変化 立話し犬のしつけや夏談義	
	万緑や毛無山とはいふけれど 琉金の身を揺すらせて誘ひをり	下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	万緑や毛無山とはいふけれど 琉金の身を揺すらせて誘ひをり	
	マネキンの水着を剥がしトドの買ふ 猛暑にも耐へて動かず信玄像	壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	マネキンの水着を剥がしトドの買ふ 猛暑にも耐へて動かず信玄像	
	呟いてその気にさせて生身魂 鍵束の一つ一つにある晩夏	白井道義 白井道義
【佳作】	呟いてその気にさせて生身魂 鍵束の一つ一つにある晩夏	
	支柱に頼りきっている秋ナス 蝉は淋しがりや私んちに来て鳴く 南瓜花閉じてしまったマニフェスト聞いてから	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	支柱に頼りきっている秋ナス 蝉は淋しがりや私んちに来て鳴く 南瓜花閉じてしまったマニフェスト聞いてから	
	草いきれ二WAYバックにメモ用紙 汗流しハンカチタオル用意して 炎天日ノーネクタイでYシャツさ	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	草いきれ二WAYバックにメモ用紙 汗流しハンカチタオル用意して 炎天日ノーネクタイでYシャツさ	
	舵取りを戦前に向け選挙かな 暗雲を祓ふに足りぬ票となる 選挙あり火薬の臭い肌寒く	泰田成人 泰田成人 泰田成人
【佳作】	舵取りを戦前に向け選挙かな 暗雲を祓ふに足りぬ票となる 選挙あり火薬の臭い肌寒く	
	えご散るや子供我まま抜けきれず 訳も無く前に出されて心太 変装の子供街までサングラス	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	えご散るや子供我まま抜けきれず 訳も無く前に出されて心太 変装の子供街までサングラス	
	踊子も太鼓も笛も老人会 お化け募集お化け屋敷も狭き門	高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	踊子も太鼓も笛も老人会 お化け募集お化け屋敷も狭き門	

【佳作】	クマゼミが傘に飛び込む暑さかな ラブソングの熱唱なのか蟬時雨 蟬の子が迷子となりて舗装道	高橋マキコ 高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】	この地売ります尺蠖に測らせて 強制的に節電をさせはたた神	高橋素子 高橋素子
【佳作】	迎火のゆるる向ふに誰かゐる 風見鶏うなだれてゐる猛暑かな ソーダ水の中すいすいと泳ぐ夢	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	金魚すくひや童には勝てずなる 広告の鰻の踊るげなりけり 一匹のぶとに目をおそはれるなる	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	盆踊り指摘を受けし左前 シャワー室水着脱ぎてもまだ水着 麦稈帽ポンポン舟は波を蹴る	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	おれおれの電話に弱きあつぱつぱ 傘寿翁手足くねくね阿波踊	田村米生 田村米生
【佳作】	鉢植えの自家製トマトは高価なり 池底の蝌蚪もつるんで徒党組む 木の根っこ蛇と間違え立ちすくむ	津田このみ 津田このみ 津田このみ
【佳作】	朝刊の株式欄や蟻走る 甚平の肩に甚平御練来る 飽食の膾炙暗き昼寝かな	都吐夢 都吐夢 都吐夢
【佳作】	恙なき排泄機能生身魂 紅顔の十五に戻る敗戦忌 シンプル・イズ・ベスト冷酒に冷奴	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	自画像を怒らせてゐる秋の夜 きちきちの羽音に神籤凶引きて	永島董玉 永島董玉
【佳作】	ビーチパラソル女王様は太りすぎ 秋来ぬと目には清かに物価高	西をさむ 西をさむ
	ブルーマの提灯行列体育祭 運動会走れば尿意何処やら	花岡直樹 花岡直樹

【佳作】	頭の蚊を叩けずにいる施餓鬼僧	花岡直樹
【佳作】	手を引かれ子は日傘よりはみ出せり われを刺し隣の人に打たれし蚊 天の川はどうすすすと運命線	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	天帝の間違ふ立秋この暑さ 運転手昼寝の最中舟も漕ぐ 果樹園を跳びだす桃の桃太郎	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	庭木に水たっぷり遣れば夕立くる 献立表横目に貴船川床過る 天道虫羽を開けばガガーリン	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	梅雨明やどかと居座る高気圧 おしゃべりの言葉のはじけソーダ水 あま酒に麴の蘊蓄添へらるる	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	ほろ苦き日々遠くしてビール飲む どちらかと言へば縄文バナナ剥く 病葉や一病をもて息災に	広瀬雅幸 広瀬雅幸 広瀬雅幸
【佳作】	頭の上に草履振りあげ夏の蜂 空蟬の不可思議墓石搦へる 蔓おこし猪のこまめさ走り藪	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	蛆達は生まれるのやらわくのやら ストローで何飲んである藍浴衣 暑苦しまたやっちゃった誤変換	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】	蝉の声溶かしつ流れ溪の水 地獄絵の釜の中なるこの暑さ 木槿咲く今年の夫を細くして	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
【佳作】	夏負けのうつらうつらや昼下がり 色と香の身体にしみこむ鹿子百合 打ち水に飛び出す蝉に猫じゃれる	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】	不祥事の寝室までを蟻の列 噴水を見下ろし貧乏ゆすりかな 羅の女にからむ秘仏の眼	松井まさし 松井まさし 松井まさし
	花火師や打ち上げたぎて心せく	松尾軍治

【佳作】	切り刻み金取る外科の暑さかな 鳩ぼつぼ豆がほしいか終戦日	松尾軍治 松尾軍治
【佳作】	丑の日や縁なき衆生卓静か 老国に天使の下る大暑かな 北の示威夏やせ目立つ兵ばかり	丸山紘一 丸山紘一 丸山紘一
【佳作】	元気ふるサーファーの背に老の波 蟻の巣の迷わず殺生狭き庭 極熱や為すすべもなくチョコを食ふ	三塚不二 三塚不二 三塚不二
【佳作】	くらげは海の蚊だねと刺されし子 人気者寝れば小さな金太郎 ざぶざぶさくさくしゃきしゃきただただ西瓜食う	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	炎天下夢遊病者の如くあり 小心に武器となりたるサングラス 暑いのにどこへ行くのか寄席じゃがな	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	爆ぜること今は昔の遠花火 踊りの輪響く下駄音波の音 震災忌誤報もあるが備えよと	百千草 百千草 百千草
【佳作】	色褪せに耐えないわ夏の薔薇 星一つ露地育ちのミニトマト 蝉時雨演歌に成らず大合唱	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	熱中症飛ばすゴルフの熱中症 蒲焼きをカッテ来るぞと勇ましく 昭和為る虎造節や夏座敷	森 要 森 要 森 要
【佳作】	目に汗の防潮堤の眉二本 工作の指のべたべた夏休み 冷蔵庫に入らぬ西瓜どうすべえ	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	サングラス特選三句なぜかしら 薄衣や乳房の重み推し量る 目ぢからの三文文士盆芝居	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	夜の明けて形状記憶の竹婦人 DNA誰に分けよか藪蚊刺す パンツまで濡らしてしまふ汗みどろ	柳 紅生 柳 紅生 柳 紅生

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 蚊に刺され傘寿の肌も美味しかな
検査後のぐらりめまいや夏の冷え
ステテコにいらだつ夫は缺入れ | 柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 | 昼顔の面面塀に集ふかな
蚊苦闘之一夜眼中渦線香
訪ね人ありて涼しき夢枕 | 山下正純
山下正純
山下正純 |
| 【佳作】 | 猛暑なり身包み剥いでしまひたい
朝採りのトマト鴉に先越され
冷房のやはらかな席どこにある | 山本けい子
山本けい子
山本けい子 |
| 【佳作】 | まあまあの値段が決め手夏帽子
寺めぐり帽子とつては汗をふき
きらきらと四国の夏は樹も水も | 山本 賜
山本 賜
山本 賜 |
| 【佳作】 | 瓢箪のくびれうらやむダイエット
薫風や新妻さんといふ老妻
活断層知らんぷりして草いきれ | 横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎 |
| 【佳作】 | 愛犬にクーラーつけて留守たのむ
水着ショウ覗き見るのも目の保養
雨乞ひの声もひいひい早梅雨 | 渡辺さだを
渡辺さだを
渡辺さだを |

